



鎌倉日和® Vol.14

発行日：2017年新春
編集 / 将星国際特許事務所

つおやき~事務所にて~

明けましておめでとうございます。新しい1年の始まり、今年はどうなるのでしょうか。鎌倉日和の編集を通じ、多くのお客様にじっくりお話しすることができ、鎌倉ブランドの多様性や魅力をますます感じています。今年も多くのお客様との『出会い』がありますよう、また皆様にとっても素敵な1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

鎌倉ブランドのお客様・その①

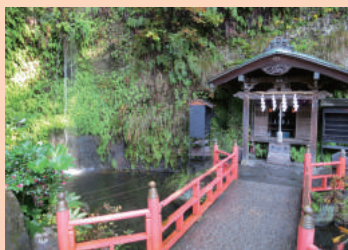
●一年の計は元旦にあり

銭洗弁財天®様



鎌倉で無病息災、商売繁盛を祈願するなら、霊頭あらたかなること著名な鎌倉銭洗弁財天ですね。銭洗弁財天も登録商標です。お正月を迎えるにあたり、お話を伺いました。

銭洗弁財天の歴史は古く、源頼朝公が鎌倉に幕府を樹立した時代が起源です。源平の合戦ですきんだ国民の生活を憂いた頼朝公が、神のご加護を祈願したところ、1185年の巳の月、巳の日、枕元に宇賀神が現れて告げます。「福の神が住む清浄の地から湧き出る霊水を絶えず使って神仏を祀れば、世の中は平穏に治まります」頼朝公はお告げ通りに西北の谷に泉を見つけ、宇賀神を祀ったのが銭洗弁財天の起りだそうです。



その後も信心は途切れることなく、北条時頼公の時代、信心深い者が持っている金銭を霊水で浄め、同時に心身を浄めて不浄を払えば清浄の福銭になると言い、率先して一家繁昌、子孫長久を祈願しました。現在まで継がれる銭洗いは、今から760年も前に始まり、以来広く信仰を集めてきたのです。

宇賀神は頭は人、体は蛇の神さまで。仏教の弁財天と習合し、宇賀弁財天とも呼ばれます。



鎌倉銭洗弁財天の御祭神は、本社が市杵島姫命、奥宮が弁財天です。市杵島姫命は日本神話に登場する神さまで、仏教の弁財天と同神とされています。弁財天のお遣いは蛇。つまり、銭洗弁財天でお祀りされている神さまは、弁財天や蛇の神さまと関連が深いのです。

銭洗弁財天では巳の日になると、正面に提灯が掲げられ、宮司による祈禱が行われます。当日参詣できなくても、事前に申し込んでおけば巳の日に祈禱を



していただけるそうです。また、神社内の鳥居は繁昌のお礼として寄贈することもできるそうです。

銭洗弁財天はもともと世の中が広く幸福になることを願った神社です。福銭も、回り回って自分のところにきたお金を清浄し、また世の中を回って福をもたらし、皆が健康で豊かに暮らせるようにとの思いを込めて、どんどん使うのが好ましいそうです。

商売繁昌を祈願しに、今年の初詣に訪れてみてはいかがでしょうか。

鎌倉銭洗弁財天®宇賀福神社

鎌倉市佐助二丁目25-16

1月の巳の日

6日、18日、30日



鎌倉ブランドのお客様・その②

- 一年のはじまりだから、ちょっといいビールで乾杯

鎌倉ビール醸造 株式会社様



鎌倉と

「鎌倉で商売をするには、軸になるものがないとダメなんだよ。うちが一番大切にしていることは『鎌倉と』。」

「鎌倉の」とか「鎌倉で」はたくさんあるけど、『鎌倉と』。鎌倉で商売する人は、みんな同じこと考えているんじゃないかな。」今村社長は開口一番、まずこうお話をくださいました。

鎌倉のあちこちで見かける鎌倉ビール。青いのぼりが目印で、鎌倉で知らない人はいないほどの人気のブランドです。しかし、創業当社から順風満帆だったわけではないそうです。

酒屋からビール造りに挑戦しましたが、当時の鎌倉では目新しく、すぐには地元で受け入れられませんでした。まずは鎌倉に憧れを持つ近隣の地域で実績を上げ、鎌倉に凱旋。取扱店舗も増え、今日に至ったそうです。今では鎌倉を代表するブランドの1つです。

苦労は他にもあります。工房で1回に仕込めるビールの量は1トン。一方、大手ビールメーカーのタンクは1つで4500トン。価格では絶対にかないません。鎌倉ビールでは、最初から大手とは違う市場を狙いました。鎌倉ビールがターゲットとしたのは、なんと「ビールを飲まない人達」。立ち上げ当初に小町通りで

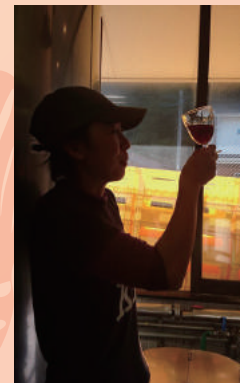


聞き込みを行い、ビールを飲まない女性達に「何故ビールを飲まないのか」という質問を繰り返します。答えは「苦いから」。じゃあ、苦くないビールを作つて、ビールを飲まない人達に飲んでもらおうと醸造したのが「鎌倉ビール」。独特な柔らかな

味わいと豊かな風合いはこうしたコンセプトから生まれているのです。

鎌倉でのシェアを徐々に伸ばすと、クラフトビールが「地産地消」に非常に適しているという特徴が見事にマッチし、一気に鎌倉に受け入れられます。一般の市販ビールは、長距離輸送に耐え、長期間味が変化せずに保存できることが特徴ですが、これは大手メーカーの大規模な酵母濾過装置によって実現されます。一方の小ロット生産のクラフトビールは、酵母を取り除かないビールで対抗です。酵母は生き物なので、ビールの味は刻一刻と変化します。地産地消であれば、輸送の時間が省かれ、最も美味しい瞬間に提供することができるのです。逆に言えば、鎌倉でしか味わうことのできない鎌倉ビールの味があり、そこが転じて強みとなります。

こうして鎌倉とともに歩み、商売を続けてきた鎌倉ビールが掲げるのは『鎌倉と』。鎌倉に根差し、鎌倉の発展を考え、鎌倉にどうやって貢献できるのか。今村社長は常に多くのことを教えて下さいます。今回のインタビューでも「そこまで話していいんですか？」とこちらが不安になって聞くと、「鎌倉のために聞いて下さい。どんどん話します」と、屈託のない笑顔で答えてくださいました。『鎌倉と』の思いが身にしみます。私たちも同じ思いで、今年も1年鎌倉のために邁進したいと気持ちを引き締めました。



ご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。昨年中はひとかたならぬご厚誼を賜り、誠にありがとうございました。お陰さまをもちまして、将星国際特許事務所はこの1月で9年目を迎えます。鎌倉の商工業のために何ができるのか。微力ながらも1つ1つ積み重ねていくことが大切であると考えております。本年も鎌倉ブランドの発展に貢献できるよう、誠心誠意頑張っていきたいと思っております。本年も、よろしくお願ひ致します。

所長 弁理士 渡部 仁